

九州大学病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

課題名	低侵襲膵頭十二指腸切除術の難易度評価スコアリングの開発：日韓合同多施設共同研究
主施設の研究責任者①	上尾中央総合病院外科 医長 若林 大雅
主施設の研究責任者②	Department of Surgery, Samsung Medical Center, Associate Professor Sang Hyun shin
当院の研究責任者	九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科学分野 教授 中村 雅史
当院の研究分担者	九州大学病院 光学診療部 准教授 仲田 興平 九州大学病院 胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科 講師 池永 直樹 九州大学病院 胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科 助教 井手野 昇 九州大学病院 消化管外科（1） 助教 渡邊 雄介 九州大学病院 胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科 助教 阿部 俊也
研究期間	研究許可日～2026 年 12 月 31 日
調査データ対象期間	2010 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日
本研究の目的	低侵襲膵頭十二指腸切除術は手術の複雑さ、合併症の高い発生率、手術頻度の低さ、および症例の集約化の弊害により、学習曲線に時間を要することが知られている。低侵襲膵頭十二指腸切除術の安全な普及を確保するために、この手術技術の学習曲線に関するより客観的で定量的なデータが必要であり、それに基づくトレーニングプログラムと段階的なアプローチが求められる。近年では、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術だけでなく、ロボット支援下膵頭十二指腸切除術の症例数も増加しており、ロボット手術の学習曲線を腹腔鏡手術と比較していかに克服しているかに関する客観的なエビデンスが不足している。学習曲線の分析では、施設の規模、トレーニングシステム、手術症例数、手術のタイミングなど、さまざまな要因を考慮する必要がある。数値比較だけで学習曲線の優越性を評価することは困難で、同じデータでも異なる統計手法を使用すると異なる結果が得られる可能性がある。これらの問題を克服するために、一貫した統計手法を使用した多施設データ分析が必要である。
対象となる患者さん	調査データ対象期間に、腹腔鏡下またはロボット支援下、またそのハイブリッドアプローチによる膵頭十二指腸切除術を受けた患者さん
利用する試料・情報	手術時年齢、性別、身長、体重、既往歴、手術歴、術前臨床データ、術前症状、CA 19-9、CEA、WBC、血小板、Hb、アルブミン、CRP、術前治療、術前画像所見、手術所見、病理学的データ、術後結果 等
試料・情報を提供する他の研究機関	韓国、サムスン医療センター外科：Department of Surgery, Samsung Medical Center

個人情報の保護に関する情 報	利用する情報から氏名や住所等の患者さんの特定につながる個人情報は削除します。研究成果は学会や学術誌等で発表する可能性があります、その際は患者さんを特定できない形で行います。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
倫理審査等の経過	第 274 回上尾中央総合病院倫理委員会で承認 (受付番号 1261)
お問い合わせ先	担当者：九州大学病院 消化管外科 (1) 助教 渡邊 雄介 連絡先： [TEL] 092-642-5440 (内線 7407) [FAX] 092-642-5457 メールアドレス：watanabe.yusuke.120@m.kyushu-u.ac.jp